

福田正夫 小説家。明治二十六年二月二十六日神奈川縣生れ、昭和二十七年六月二十六日歿（一九二一九年）。舊姓堀川。筆名愚明、楠田まゆり、正夫、福田、福田權歌、福田生等。大正二年神奈川師範學校卒。小學校教員。七年井上康文、花園謙一等と雑誌『民衆』を創刊。十年詩話會の機關誌『日本詩人』編輯に加はり、十五年『主觀』を、昭和四年には『焔』を創刊主宰。

著譯書、詩集『農民の言葉』（大正五年一月一日南外堂書店）、『ラウゼルの詩集』（譯、大正九年四月十二日新潮社「泰西名詩選集」）、

『未嫁地・2（彼とそひ兄弟）』（大正九年十一月十五日聚英閣）、

『童謡・民謡・詩のつくり方』（井上康文共著、大正十年十一月十五日

付大同館）、エマーソン
ホイットマン 他著『泰西社會詩人詩集』（白鳥省吾
福田京治共譯
福田裕花）

大正十一年一月十日日本評論社出版部）、詩集『船出の歌』（大正十

一年二月二十日大鏡閣）、『長篇叙事詩』全八冊（『高原の處女』大

正十一年七月十七日、『戀の彷徨者』（十一年五月五日、『嘆きの孔

雀』（十二年八月十五日、『筑波の白白合』（十四年二月五日、『輝ける

蒼鷺』（十一月十二日、『幻の麗人』（十五年四月二十日、『破れ胡蝶』

十月二十日、『空翔ける美女』（二十一年十月新潮社）、『耕人の手』（大

正十二年十月）、二十五日新潮社「現代詩人叢書」）、幻想
詩劇『死の爲の美

女』（大正十四年六月五日新潮社）、『自由詩講座』（昭和四年五月



二十日資文堂書店）、『現代詩人全集・第十一卷』

白鳥省吾共譯『福田正夫全集』（昭和五年二月二十五日新潮社）、『精

野口雨情集 鏡十人傑作集』（今春、昭和六年四月二十日現代評

論社）、『大正詩選』（白鳥省吾
川路柳虹共編、昭和八年八月二十五日新潮社

『新潮文庫』、『珍談奇談集』（合著、昭和八年十一月十六日大日本雄辯會講談社「キング文庫」）、『自由詩作法』（昭和十一年十一月）千日堂文堂書店）、『小國詩の新しい味ひ方・前期用』（昭和十四年五月一日育英書院）、『尊徳の説く六士の聖書』（六版・昭和十六年二月五日東京江堂）、『皇農・皇尊徳』（昭和十七年一月）千日堂書院）、『少國民海洋詩集』（合著・日本青年詩人聯盟編、昭和十八年二月）千五百玉川學園出版部）、『新日本選愛國の詩』（合著・安部田文介編、昭和十八年四月）千五百大阪・大和出版社）、『曙』村上成實編、昭和十八年四月）千五百大阪・大和出版社）、『曙』（昭和十八年十一月十日大阪・松榮館）、『農土日本詩集』（合著・松村文一編、昭和十九年七月）千日秋原忠文堂、彰考書院創立事務所）、『暴風雨の虹』（昭和二十一年六月）千日一聯社）、『長篇叙事詩』（『高原の處女』昭和二十一年六月）千五百、『嘆きの孔雀』（二十日、四月の凍蝶』十一月）千日一聯社）、小説『敗戦前後』（昭和二十一年六月）千日一聯社）、詩集『農民の言葉』（昭和五十九年六月）千日教育出版センター）等。

文獻、ユーカーリ編纂部編『追想・楳田正夫詩と生涯』（昭和五十五年十一月十五日冬至書房新社）等。